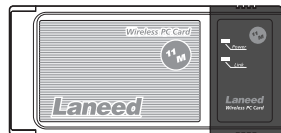


Laneed
Easy Network Solution Provider

Wireless PC Card

11Mbps無線LAN PCカード

LD-WL11/PCC2



必ずお読みください	P14
取り付けと取りはずし	P15～19
Windows Meでのセットアップ	P20, 21
Windows 98でのセットアップ	P22～26
Windows 2000でのセットアップ	P27～30
ドライバの動作確認	P31, 32
ネットワークの設定	P33～46
無線LAN設定ユーティリティの基本設定	P47～55
必要に応じてお読みください	P56～79

User's Manual

11Mbps無線LAN PCカード

LD-WL 11/PCC2

User's Manual

ユーザーズマニュアル

■ はじめに ■

この度は、弊社ラニードの11Mbps無線LAN PCカード"LD-WL 11/PCC2"をお買い上げいただき誠にありがとうございます。このマニュアルには、"LD-WL 11/PCC2"をコンピュータに導入するにあたっての手順が説明されています。また、お客様が"LD-WL 11/PCC2"を安全に扱っていただくための注意事項が記載されています。導入作業を始める前に、必ずこのマニュアルをお読みになり、安全に導入作業をおこなって製品を使用するようにしてください。なお、このマニュアルでは一部の表記を除いて"LD-WL 11/PCC2"を「本製品」と表記しています。

このマニュアルは、製品の導入後も大切に保管しておいてください。

ご注意

- 本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しましては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。
- 本製品のうち、戦略物資または役務に該当するものの輸出にあたっては、外国為替法に基づく輸出または役務取引許可が必要です。
- 本製品は日本国内での使用を前提に製造されています。日本国外での使用による結果について弊社は一切の責任を負いません。また、本製品について海外での保守、サポートはおこなっておりません。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および™は省略させていただきました。

●このマニュアルで使われている記号

記 号	意 味
	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。
 	キーボード上のキーを表わします。

安全にお使いいただくために

Laneed

けがや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を必ずお読みください。

 警告	この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。
 注意	この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、他の機器に損害を与えたりすることがあります。

警告

 小さな子供のいるそばで、取り付け取りはずしの作業を行わないでください。また、子供のそばに工具や部品を置かないようにしてください。けがや感電、部品を飲み込んだりする危険性があります。

 本製品の取り付け、取りはずしのときは、必ずコンピュータ本体および周辺機器メーカーの注意事項に従ってください。

 本製品の分解、改造、修理をご自分で行わないでください。火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。

 本製品を取り付けたコンピュータ本体から煙やへんな臭いがしたときは、直ちに電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

 本製品を取り付けたコンピュータ本体に、水などの液体や異物が入った場合は、直ちに電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

安全にお使いいただくために



本製品および本製品を取り付けたコンピュータ本体を、水を使う場所や湿気の多いところで使用しないでください。

火災や感電、故障の原因になります。

注意



本製品の取り付け、取りはずしのときは慎重に作業を行ってください。強引な着脱は、機器の故障や、けがの原因になります。



本製品の取り付け、取りはずしのときは、本製品に触れる前に金属性のもの(スチールデスク、ドアのノブなど)に手を触れて、静電気を除去してから作業を行ってください。

静電気は本製品の破損の原因になります。



本製品および本製品を取り付けたコンピュータ本体を次のようなところで使用しないでください。

- ・高温または多湿なところ、結露を起こすようなところ
- ・直射日光のあたるところ
- ・平坦でないところ、土台が安定していないところ、振動の発生するところ
- ・静電気の発生するところ、火気の周辺

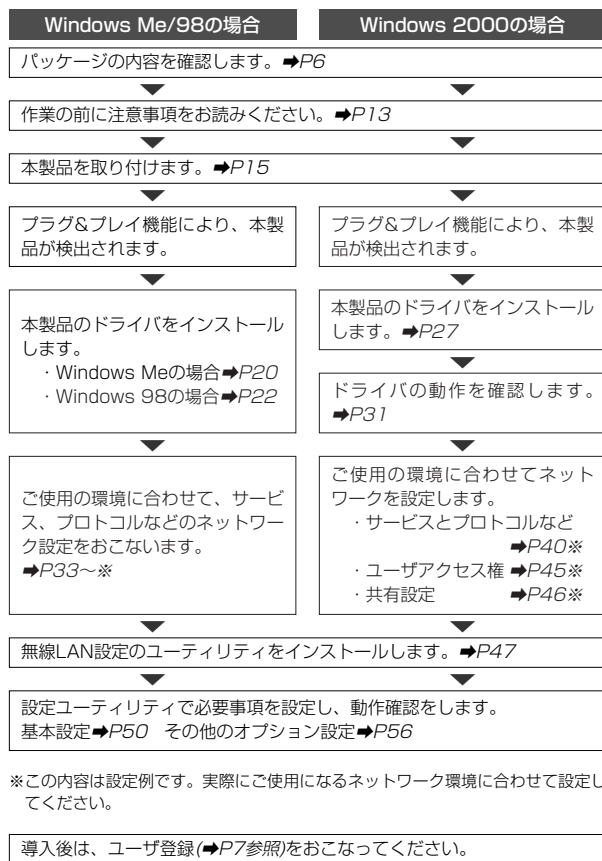


長期間、本製品を取り付けたコンピュータ本体を使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。また、バッテリーもはずしておいてください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

導入の手順フロー

Lanetel



もくじ

Lanetel

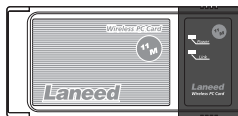
はじめに	1	11. ネットワークを設定する	33
安全にお使いいただくために	2	Windows Me/98の	
導入の手順フロー	4	ピア・ツー・ピア設定例	33
もくじ	5	Windows 2000の	
		ネットワーク設定例	40
		Windows 2000の	
		ユーザアクセス権の設定	45
		Windows 2000の	
		共有設定例	46
1. パッケージの内容を確認する	6	12. 設定ユーティリティの	
2. 製品の保証とユーザ登録	7	インストール	47
3. 本製品の概要について	8	13. 基本設定をする	50
本製品の特長	8	基本機能を設定する	51
本製品の動作環境	9	動作を確認する	54
各部の名称とはたらき	10	14. オプション機能を設定する	56
4. 無線LANの基礎知識	11	WEPを設定する	56
5. 本製品を使用するに		その他のオプション機能を	
あたっての注意事項	13	設定する	60
6. 本製品の取り付けと		アクセスポイントの参照	62
取りはずし	15	15. ファームウェアの	
取り付け前に確認する	15	アップグレード	64
取り付けの方法	17	16. アダプタの詳細設定	66
取りはずしの方法	18	17. 無線LANの動作チェック	68
7. Windows Meでの		18. こんなときは	71
セットアップ	20	19. サポートサービスについて	77
8. Windows 98での		20. 基本仕様	79
セットアップ	22		
9. Windows 2000での			
セットアップ	27		
10. ドライバの動作を確認する	31		

1 パッケージの内容を確認する

Laneed

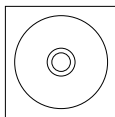
本製品のパッケージには、次のものが入っています。作業を始める前に、すべてが揃っているかを確認してください。なお、梱包には万全を期しておりますが、万一不足品、破損品などがありましたら、すぐにお買い上げの販売店または弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。

●11Mbps無線LAN PCカード



●CD-ROM 1枚

(ドライバ、設定ユーティリティ)



●ユーザズマニュアル 1冊

(このマニュアルです)



●ユーザ登録カード 1枚



●保証書 1枚



2 製品の保証とユーザ登録

Laneed

製品の保証とサービス

本製品には保証書が付いています。内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証期間はご購入の日より1年間です。保証期間を過ぎての修理は有料になります。詳細については保証書をご覧ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、ご購入の販売店にお問い合わせください。

●保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますので、ご注意ください。
・ 弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
・ 本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
・ 本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

●修理の依頼

77ページ「修理の依頼」をお読みください。

●その他の質問などに関して

77ページ「サポートサービスについて」をお読みください。

ユーザ登録

製品の導入が完了したらユーザ登録をおこなってください。お客様のユーザ登録は、インターネットからのオンライン登録または付属のハガキで登録することができます。

●オンラインでの登録

弊社ラニード・ホームページから登録が可能です。

ホームページアドレス：<http://www.elecom-laneed.com>

●付属のユーザ登録カードでの登録

必要事項をご記入の上、ご投函ください。品番とシリアル・ナンバーは控えておいてください。裏面のアンケートにもお答えください。ご意見は、今後の製品開発などに役立てていきます。

3 本製品の概要について

Laneed

本製品の特長

●11Mbpsの高速通信と高い拡張性

IEEE802.11b準拠、10BASE-Tよりも高速な11Mbpsの通信速度です。無線LANカードだけを使用して通信するアドホック・モードと、アクセスポイントを使用するインフラストラクチャ・モードに対応します。

●ノイズに強いスペクトラム拡散方式(DS-SS)を採用

通信方式には、スペクトラム拡散方式を採用しています。この方式は、特定の周波数成分がノイズで通信できなくても、別の周波数成分を使って通信することができるノイズに強い通信方式です。

●ESS-IDやWEPによるセキュリティ機能

特定のグループを設定するESS-ID機能をはじめ、アクセスポイントを使用する場合は、登録されたMACアドレスを持つ無線LANカードとだけ通信することができる「MACアドレスフィルタリング」にも対応します。さらに、データそのものをWEPにより暗号化することで、第三者に盗聴されてもそのままではデータを見ることができないようにすることが可能です。WEPは40bit互換のWEP64(64bit)とWEP128(128bit)に対応します。

●14chの多チャンネル切替

14chの中から使用するチャンネルを選択できます。チャンネルごとにワークグループを区別することで不要なデータ送受信を減らすことができます。これにより、トラフィックが軽減されスループットを向上させることができます。

●導入しやすい簡単設定ユーティリティ

通信モードの設定、セキュリティ情報の設定などができる設定ユーティリティを添付しています。高度な知識がなくても、簡単に設定できるようになっています。

3. 本製品の概要について

●プラグ&プレイでインストールも簡単

本製品を接続後、コンピュータ本体の電源をONにすると、自動的にドライバインストールのウィザードが起動します。あとは、付属のドライバディスクを入れるだけで簡単にインストールできます。

※Windows 98ではOSのCD-ROMが必要なことがあります。

●コンピュータの電源がONのまま取りはずしが可能

ホットプラグに対応しますので、コンピュータ本体の電源を入れたままで本製品を抜き差しできます。必要なときだけ本製品を接続してネットワークに接続することができます。コンピュータ本体の電源を入れたままでの複数回の抜き差しも可能です。

※ネットワーク設定によっては、起動時に必ず接続しておく必要があります。

●そのほかある豊富な機能

- ・ダイバシティアンテナにより、安定したデータ転送を実現します。
- ・3.3V仕様だけでなく5V仕様のPCカードスロットでもご使用いただけます。
- ・「AirMac」に使用されているルーセント・テクノロジー社のチップと互換性があります。

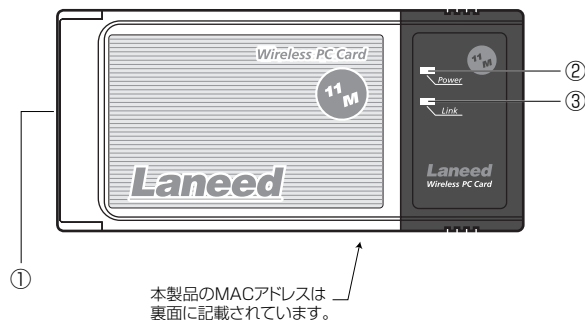
本製品の動作環境

本製品は次の動作環境に対応しています。

対応機種	PC/AT互換機(DOS/V)、NEC PC98-NXでPCカードスロット(PCMCIA TYPE II)またはCard Busスロットを持つ機種 ※ノートパソコンの最新の対応情報は、ラネード・ホームページまたはFAX情報サービスでご確認いただけます。
対応OS	Windows Me, Windows 98, Windows 95, Windows 2000, Windows NT 4.0

※最新の動作環境は弊社ホームページ(<http://www.elecom-laneed.com>)でご確認ください。

各部の名称とはたらき



①	68ピンコネクタ	コンピュータのPCMCIA Type II 対応のPCカードスロットへ差し込むコネクタです。コネクタを指で触れないように注意してください。
②	Powerランプ	PCカードスロットから電源が供給されているときオレンジ色に点灯します。無線LANのリンクが確立されていないときは点滅します。
③	Linkランプ	インフラストラクチャ・モードでは、アクセスポイントと正常に接続されているときに点滅します。アドホック・モードでは、無線LANアダプタと正常に接続されているときに点滅します。

4 無線LANの基礎知識

Laneed

本製品を使った無線LANの基本的なことについて説明します。

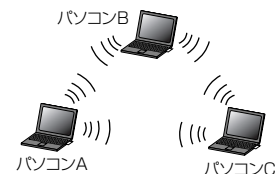
無線LANの2つの通信モード

無線LANには2つの通信モードがあります。ひとつは、無線LANカードだけでネットワークを構成する「アドホック・モード」です。無線LANカードを取り付けたノートパソコン同士が自由にデータを交換できます。ネットワーク内にプリンタがつながったパソコンがあれば、共有設定するだけで他のパソコンからもプリントアウトできるようになります。

もうひとつのモードは、「アクセスポイント」と呼ばれる中継装置を使う「インフラストラクチャ・モード」です。アクセスポイントにはイーサネットポートが用意され、ケーブルで有線LANに接続することができます。

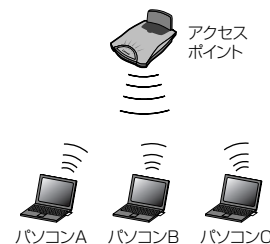
●アドホック・モード(AdHoc Mode)

ノートパソコン数台だけでデータのやり取りをするのに適しています。プリンタやドライブを共有できるので、周辺機器を効率的に利用できます。各パソコンは対等の扱いになるピア・ツー・ピア接続になります。



●インフラストラクチャ・モード(Infrastructure Mode)

アクセスポイントを経由してパソコン同士を接続します。有線LANと接続し、相互に通信することもできます。また、ルータを利用すれば、各パソコンからインターネットに接続できます。アクセスポイントを複数設置すると、通信エリアが拡大するだけでなく、移動しながらネットワークを利用したときに、自動的に電波状態のよいアクセスポイントに切り替わるマルチチャンネルローミング機能が利用できます。



無線LANのセキュリティ機能

無線LANは電波でデータを送受信するので、知らない間にネットワークに不正アクセスされたり、電波を盗聴される可能性があります。そこで、無線LANカードおよびアクセスポイントには不正アクセスや盗聴を防止するためのセキュリティ機能を備えています。

●ESS-ID(Extended Service Set ID)

隣接した場所で同じ製品もしくは同じ帯域を利用する無線LANがあると、無線を使ってやり取りしているデータが混信する恐れがあります。そこで他のネットワークと自分たちのネットワークを区別するためにESS-IDと呼ばれる無線LANのグループ名称を決めます。同じ無線LANのグループに所属するコンピュータには同じ名称のESS-IDを設定することで、他のESS-IDを持った無線LANグループとは区別され、混信や不正アクセスなどを防ぐことができます。

●MACアドレスフィルタリング

ネットワークアダプタには、1台ごとに「MACアドレス」と呼ばれる固有の番号が割り当てられており、世界中に同じMACアドレスを持つアダプタは存在しません。そこで、アクセスを許可する無線LANカードのMACアドレスだけを登録することで、その他のMACアドレスを持った無線LANカードからはアクセスできないように制限することができます。本製品のMACアドレスは本体裏面に記載されています。

●WEP(Wired Equivalent Privacy)

ESS-IDやMACアドレスフィルタリングは、不正アクセスを防止するための機能ですが、それだけでは、特殊な装置を持った第三者に意図的に盗聴される恐れがあります。Air@Hawkでは、さらにセキュリティを高めるために、WEPという機能を利用できます。WEPはデータを暗号化する機能で、暗号の元になるキーワードをひとつ決め、そのキーワードから作成された40ビットの数値をキーとして暗号に利用します。同じネットワークの利用者だけに暗号を知らせることで、たとえ第三者が電波を盗聴してもデータを解読することができなくなります。

5 本製品を使用するにあたっての注意事項

本製品の導入にあたっての注意事項と、導入後に使用するにあたっての注意事項を説明します。必ずこの項目をお読みになり、本製品を正しくお使いください。

導入時の注意事項

●Windowsオペレーションディスクが必要です

WindowsオペレーションシステムのCD-ROMまたはフロッピーディスクが必要です。(インストールモデルなどハードディスクにすべてのオペレーションシステムがインストール済みの場合は不要です。)

●PCカードスロットがひとつしかない場合の注意点

PCカードスロットがひとつしかない場合、本製品を取り付けるとCD-ROMドライブが使用できません。以下のことに注意してください。

①OSのCD-ROMについて

本製品のドライバのセットアップを始める前に、OSのシステムソフトウェアの内容をハードディスクにコピーしておきます。

Windows 98の場合は、「win98」ディレクトリをハードディスクにコピーしておきます。セットアップ中にOSのCD-ROMを要求されたら、CD-ROMの代わりにハードディスク内の各ディレクトリを指定してください。

②本製品のドライバおよび設定ユーティリティについて

はじめに、ハードディスクの任意の場所に作成したフォルダに、付属のCD-ROMにある「PCC2UTIL」ディレクトリとルートディレクトリにあるすべてのファイルをハードディスクにコピーして、そのドライブからインストールしてください。

※ファイルをコピーするときの注意点

Windowsのシステムは標準では一部のファイルが表示されません。CD-ROMの内容を表示したうえで、[ツール]→[フォルダオプション]を開き、「表示」で「すべてのファイルとフォルダを表示する」ように設定してください。

導入後の注意事項

●ホットプラグ(活線挿抜)について

本製品は「ホットプラグ(活線挿抜)」に対応しています。Windows Me/98/95/2000などカードスロット用のドライバが「ホットプラグ」に対応したコンピュータでは電源を入れたまま本製品を抜き差しできます。ただし、取りはずすときに必要な操作があります。18ページ「取りはずしの方法」をお読みになり、正しい手順で取りはずしてください。なお、Windows NT 4.0は「ホットプラグ」に対応していません。

●同時に使用可能なチャンネルについて

同時使用するチャンネルが使用する周波数が一部でも重なっていると、混信により正常に通信できなくなります。以下の表の帯域一覧を参考に、同時に使用するチャンネルの周波数が重ならないように、チャンネルを選択してください。

1チャンネル 2401 2423	6チャンネル 2426 2448	11チャンネル 2451 2473
2チャンネル 2406 2428	7チャンネル 2431 2453	12チャンネル 2456 2478
3チャンネル 2411 2433	8チャンネル 2436 2458	13チャンネル 2461 2483
4チャンネル 2416 2438	9チャンネル 2441 2463	14チャンネル 2473 2495
5チャンネル 2421 2443	10チャンネル 2446 2468	

下限周波数 上限周波数

6 本製品の取り付けと取りはずし

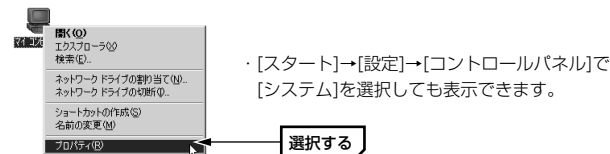
Laneed

本製品をノートタイプのコンピュータに本製品を取り付ける方法とネットワークへの接続方法を説明しています。取り付けと取りはずし方法は、本体の機種によって異なりますので、お手持ちのコンピュータ本体やカードスロットのマニュアルの該当ページを説明部分も参考にしてください。

取り付け前に確認する

ご使用になるコンピュータのPCカードスロットが正常に動作しているかを確認します。

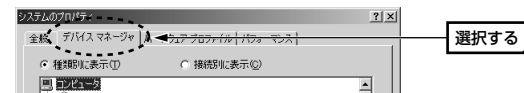
1 デスクトップの[マイコンピュータ]を右クリックし、「プロパティ」を選択します。



2 OSによって「デバイスマネージャ」画面を表示する操作方法が異なります。

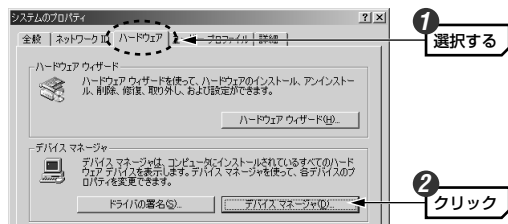
●Windows Me/98の場合

〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。【デバイスマネージャ】タブを選択します。

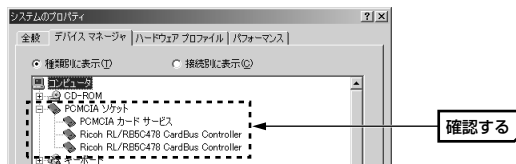


●Windows 2000の場合

〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。【ハードウェア】タブを選択し、[デバイスマネージャ]の **「デバイスマネージャ」** ボタンをクリックします。



- 3** 「PCMCIAソケット」の **+** をクリックし、PCMCIAソケットの内容を表示します。(！)や(×)のマークがコントローラに付いていないことを確認します。



・表示される内容および名称はご使用のコンピュータによって異なります。
(！)や(×)のマークが付いていないかを確認してください。

注意 (！)や(×)のマークがコントローラ名に付いている場合は、PCカードスロットが正常に動作していません。コンピュータ本体のマニュアルをお読みになり正しく動作するように設定してください。

- 4** 正常に動作していることを確認できれば、**OK** ボタンをクリックします。

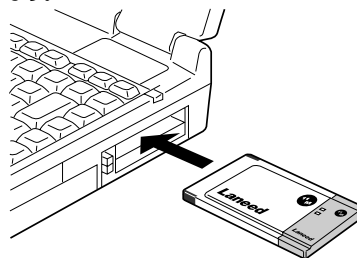
取り付けの方法

-  必ずコンピュータ本体やカードスロットのマニュアルも併せて読みながら、取り付けてください。
-  本製品の取り付けを始める前に、必ず金属に触れて身体の静電気を取り除いてください。

- 1** コンピュータ本体の電源が切れていることを確認します。

・本製品はWindows Me/98/95/2000の「ホットプラグ(活線挿抜)」に対応しています。これらのOSでコンピュータを使用する場合は、コンピュータの電源を入れたまま本製品を差し込むことができます。

- 2** コンピュータのPCカードスロットに、本製品の68ピンコネクタを差し込みます。



・表裏を間違わないように注意してください。

- 注意** カードを差し込むとき、表裏を間違えると本製品のコネクタやコンピュータ側のコネクタを破損する恐れがあります。無理に差し込まないように注意してください。

取りはずしの方法

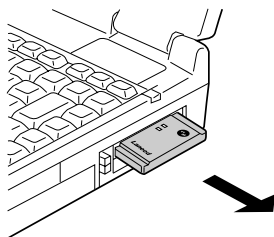
コンピュータのPCカードスロットから本製品を取りはずす方法は、コンピュータ本体によって異なりますので、コンピュータ本体のマニュアルの「PCカードスロット」に関するページを参照してください。なお、Windows Me/98/95/2000のホットプラグ機能を利用して、コンピュータの電源を入れたまま、本製品を取りはずすときはPCMCIAソケットから切り離すための操作をおこなう必要があります。

 必ずコンピュータ本体やカードスロットのマニュアルを参照して取りはずしてください。

 本製品の取りはずすときは、必ず金属に触れて身体の静電気を取り除いてください。

コンピュータ本体の電源が切れた状態での取りはずし

コンピュータ本体のマニュアルの説明に従って、PCカードスロットから本製品を取りはずしてください。

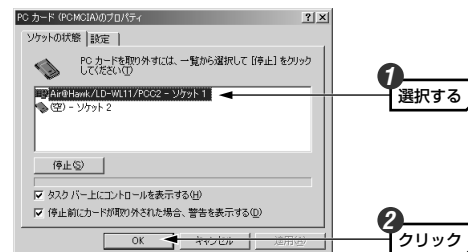


コンピュータ本体の電源が切れた状態での取りはずし

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]で、[PCカード (PCMCIA)]アイコンをダブルクリックします。

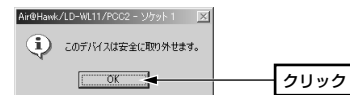


2 <PCカード (PCMCIA)のプロパティ> 画面が表示されます。「Air@Hawk/LD-WL11/PCC2」を選択し、**[停止]** ボタンをクリックします。



・ご使用のコンピュータにより、表示されるソケット数など内容は異なります。

3 取りはずし可能のメッセージが表示されます。**[OK]** ボタンをクリックします。



このあとは、「コンピュータ本体の電源が切れた状態での取りはずし」と同じ手順で取りはずしてください。

7 Windows Meでのセットアップ

Lanet

本製品を使用するにはドライバのインストール作業が必要です。Windowsを起動した状態で本製品をコンピュータに取り付けると、Windowsのシステムがドライバのインストールメッセージを表示します。手順に従ってドライバをインストールしてください。



注意 15ページ「取り付け前に確認する」をお読みになり、ご使用になるコンピュータのPCカードスロットが正常に動作していることを確認してから作業を始めてください。

- 1 コンピュータの電源を入れ、Windowsを起動します。
- 2 本製品をPCカードスロットにしっかりと差し込みます。新しいハードウェアを見つけたことを知らせるメッセージが表示されます。
- 3 付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。
- 4 「適切なドライバを自動的に検索する」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。ドライバのインストールが始まります。

新しいハードウェアの追加ウィザード



1 ここを選択

2 クリック

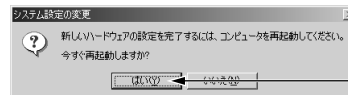
7. Windows Meでのセットアップ

- 5 新しいハードウェアのインストールが完了したことを知らせるメッセージが表示されますので、**完了** ボタンをクリックします。



クリック

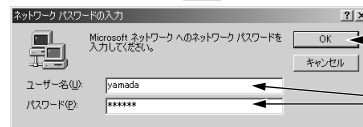
- 6 コンピュータを再起動するようにメッセージが表示されますので、**はい** ボタンをクリックします。



クリック

・ドライブからCD-ROMディスクを取り出し、大切に保管してください。

- 7 再起動すると、ネットワークへのログオン画面が表示されます。ユーザ名、パスワードを入力し、**OK** ボタンをクリックします。



2 クリック

1 ここを選択

・[ユーザー名]は必ず入力します。
・必要であれば[パスワード]を入力します。パスワードは忘れないようにしてください。

これでWindows Meへのドライバのインストールは完了です。このあと31ページ「ドライバの動作を確認する」へ進みます。

8 Windows 98でのセットアップ

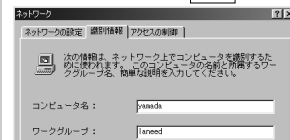
本製品を使用するにはドライバのインストール作業が必要です。Windowsを起動した状態で本製品をコンピュータに取り付けると、Windowsのシステムがドライバのインストールメッセージを表示します。手順に従ってドライバをインストールしてください。

- 1 コンピュータの電源を入れ、Windowsを起動します。
- 2 本製品をPCカードスロットにしっかりと差し込みます。新しいハードウェアを見つけたことを知らせるメッセージが表示されます。
- 3 ドライバを検索する画面が表示されますので、**次へ** ボタンをクリックします。



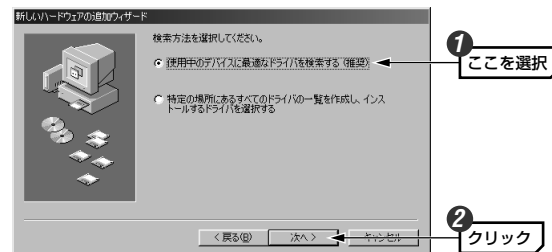
・ 検索方法を選択する画面が表示されます。

- MEMO** コンピュータ名、ワークグループ名の入力を促されたとき
- ① [コンピュータ名]の入力を促すメッセージが表示されますので **OK** ボタンをクリックします。
 - ② 【識別情報】タブで[コンピュータ名]と[ワークグループ]を入力してください。入力が終われば **OK** ボタンをクリックします。

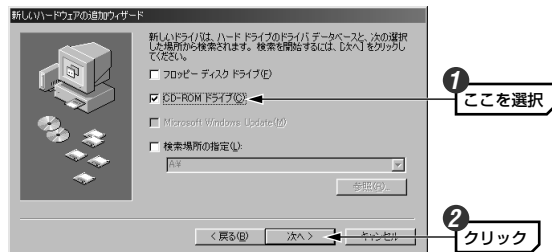
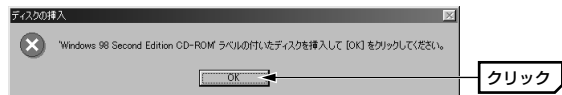


コンピュータ名	インストール中のコンピュータに与える名称を設定します。一般的には、個人単位で使うコンピュータならユーザの名前、部署単位で使うコンピュータなら部署名などを入力します。
ワークグループ	インストール中のコンピュータが接続されるネットワークのグループ名をつけます。同一ネットワーク上のコンピュータのワークグループ名はすべて同じにする必要があります。

- 4 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。

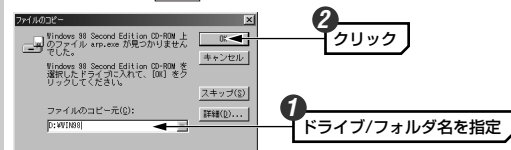


- 5 付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。

6 「CD-ROMドライブ」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。**7** ドライバのある場所が表示されますので、「次へ」ボタンをクリックします。**8** お使いの環境によっては、Windows 98のCD-ROMを挿入するようにメッセージが表示されます。

- ・Windows 98には「Windows 98 CD-ROM」と「Windows 98 SECOND EDITION CD-ROM」がありますのでご注意ください。
- ・CD-ROMディスクをCD-ROMドライブに挿入し、「OK」ボタンをクリックします。

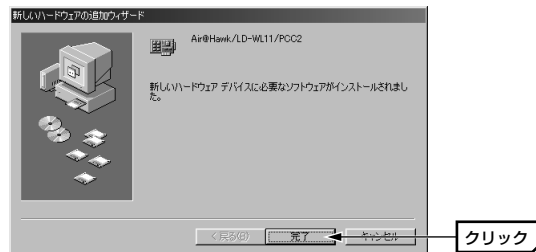
MEMO 次のような画面が表示された場合はCD-ROMを入れたドライブの「WIN98」フォルダを指定し、「OK」ボタンをクリックします。



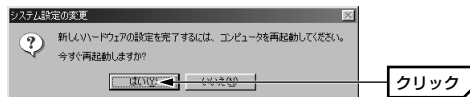
・ドライブ名のあとに必ず「WIN98」ディレクトリを指定します。
(例)CD-ROMドライブがDドライブの場合(小文字でも可)

D: \WIN98

MEMO すでにインストールされているファイルのほうが新しい場合、そのファイルを上書きするか確認のメッセージが表示されます。この場合は、日付の新しいファイルをそのまま使用するようにしてください。

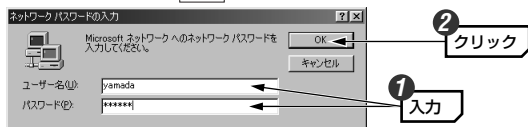
9 インストールが完了したことを知らせるメッセージが表示されますので、「完了」ボタンをクリックします。

- 10** コンピュータを再起動するようにメッセージが表示されますので、**[はい]** ボタンをクリックします。



・ドライブからCD-ROMディスクを取り出し、大切に保管してください。

- 11** 再起動すると、ネットワークへのログオン画面が表示されます。ユーザー名、パスワードを入力し、**[OK]** ボタンをクリックします。



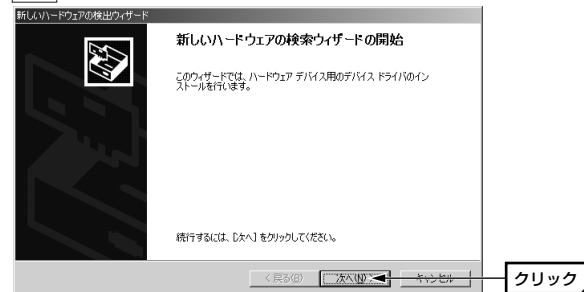
・[ユーザー名]は必ず入力します。
 ・必要であれば[パスワード]を入力します。パスワードは忘れないようにしてください。

これでWindows 98へのドライバのインストールは完了です。このあと31ページ「ドライバの動作を確認する」へ進みます。

9 Windows 2000でのセットアップ

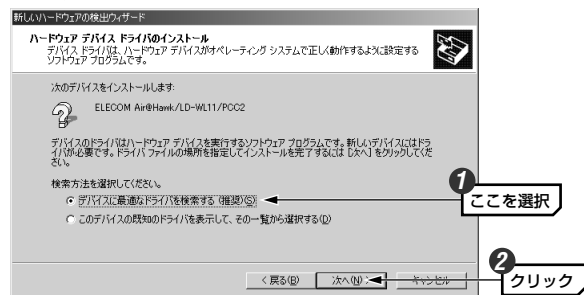
はじめて使用するときには、ドライバのインストール作業が必要です。Windowsを起動した状態で本製品をコンピュータに接続すると、Windowsのシステムがドライバのインストールメッセージを表示します。手順に従ってドライバをインストールしてください。

- 1** コンピュータの電源を入れ、Windowsを起動します。
- 2** 本製品をPCカードスロットにしっかりと差し込みます。新しいハードウェアを見つけたことを知らせるメッセージが表示されます。
- 3** **[次へ]** ボタンをクリックします。



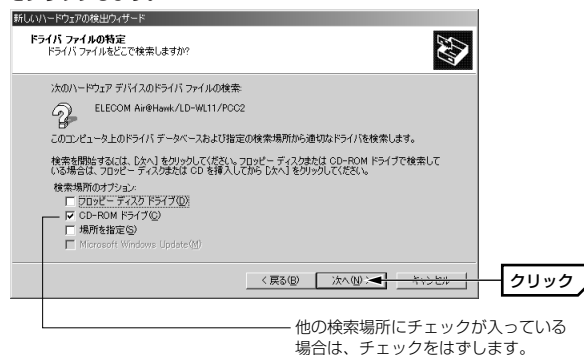
・検索方法を選択する画面が表示されます。

- 4** 「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。

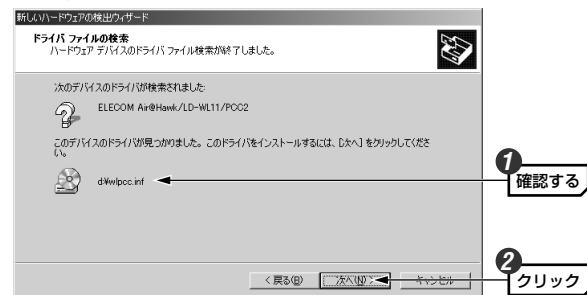


- 5** 本製品に付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。

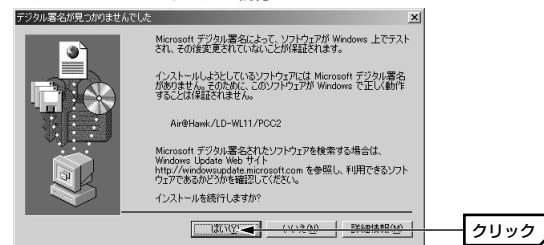
- 6** 「検索場所のオプション」で「CD-ROMドライブ」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



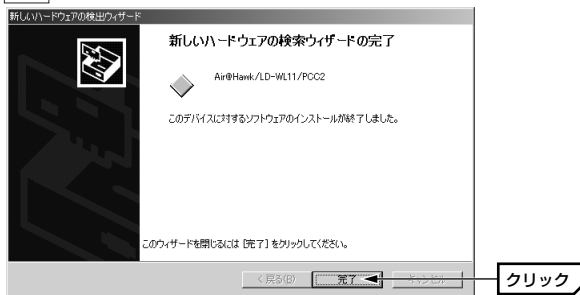
- 7** 見つかったドライバ名に「d:\wlpcc.inf」と表示されていれば、**次へ** ボタンをクリックします。



- 8** 「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示されます。**はい** ボタンをクリックし、インストールを続行します。



- 9** 「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」と表示されますので、**完了** ボタンをクリックします。



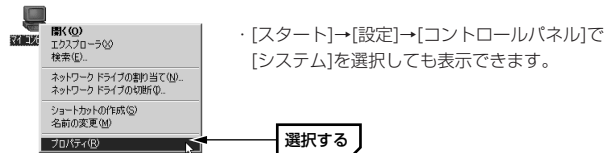
・ドライブからCD-ROMディスクを取り出し、大切に保管してください。

これでWindows 2000へのドライバのインストールは完了です。このあと次ページ「ドライバの動作を確認する」へ進みます。

10 ドライバの動作を確認する Laneed!

ドライバが正常にインストールされているかを確認します。

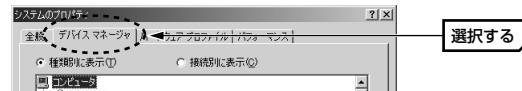
- 1** デスクトップの[マイコンピュータ]を右クリックし、「プロパティ」を選択します。



- 2** OSによって〈デバイスマネージャ〉画面を表示する操作方法が異なります。

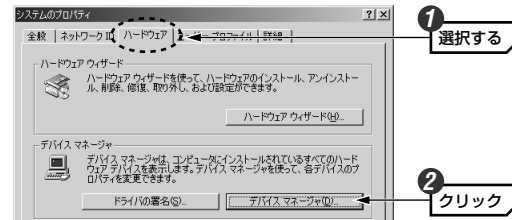
●Windows Me/98の場合

〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。【デバイスマネージャ】タブを選択します。

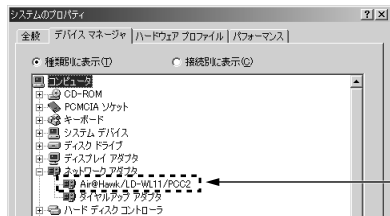


●Windows 2000の場合

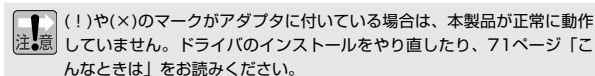
〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。【ハードウェア】タブを選択し、[デバイスマネージャ]の**デバイスマネージャ** ボタンをクリックします。



- 3 「ネットワークアダプタ」の **[+]** をクリックし、アダプタの内容を表示します。(！)や(×)のマークがアダプタに付いていないことを確認します。



・ご使用の環境によっては「ダイヤルアップアダプタ」が表示されている場合がありますが、本製品の設定とは関係ありません。



- 4 正常に動作していることを確認できれば、**[OK]** ボタンをクリックします。

このあと次の作業をおこなってください。

- ①お使いになるネットワーク環境に合わせて、ネットワークの設定を追加および変更してください。
ネットワークの設定をしないと、LANを使ってファイルをやり取りしたり、インターネットにアクセスすることはできません。
➡33ページからピア・ツー・ピアの設定例があります。

- ②設定ユーティリティにより、無線LANの設定をおこなってください。
この設定をしないと、無線LANを使ってファイルをやり取りしたり、インターネットにアクセスすることはできません。
➡47ページから設定ユーティリティについての説明があります。

1 ネットワークを設定する

Lanetel

Windows Me/98でのネットワーク設定例とWindows 2000でのネットワーク設定例を説明します。実際のネットワーク設定の参考にしてください。

Windows Me/98のピア・ツー・ピア設定例

Windows Me/98の小規模ネットワークでよく利用されるピア・ツー・ピア環境の設定例を説明します。画面例はWindows Meを使用していますがWindows 98でもほとんど同じです。

- 1 **[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]**の順に選択し、コントロールパネルにある「ネットワーク」をダブルクリックします。



ネットワーク

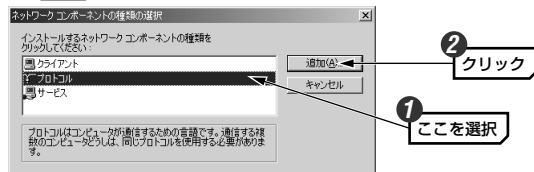
- ・〈ネットワーク〉画面が表示されます。
- ・Windows Meでよく使うコントロールパネルだけが表示されている場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると「ネットワーク」が表示されます。

- 2 **[ネットワークの設定]** タブにある **[追加]** ボタンをクリックします。



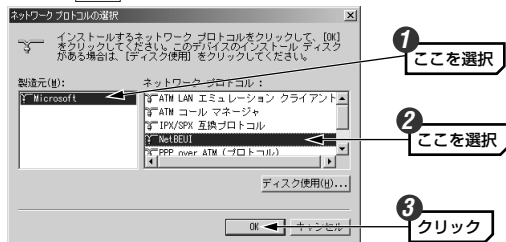
ご使用の環境により実際に一覧に表示される内容は、この画面例とは異なることがあります。

- 3** インストールするネットワークコンポーネントとして「プロトコル」を選択し、**追加** ボタンをクリックします。

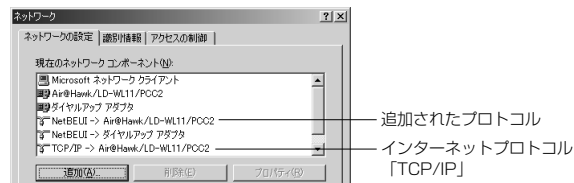


・〈ネットワークプロトコルの選択〉画面が表示されます。

- 4** 製造元で「Microsoft」を、ネットワークプロトコルで「NetBEUI」を選択します。**OK** ボタンをクリックします。



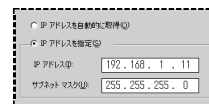
- 5** プロトコルが追加されたことを確認します。また、インターネットに接続する場合は、「TCP/IP」プロトコルがインストールされていることを確認します。



・TCP/IPプロトコルがない場合は、手順 **2** ~ **4** を参考にして追加します。

MEMO DHCPサーバ機能がない環境でTCP/IPを使用するときはインターネットに接続するために使用するルータなどには、IPアドレスを自動的にネットワーク機器に割り当てるDHCPサーバ機能があります。しかし、DHCPサーバ機能を使用しない場合や特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、次の手順で設定してください。

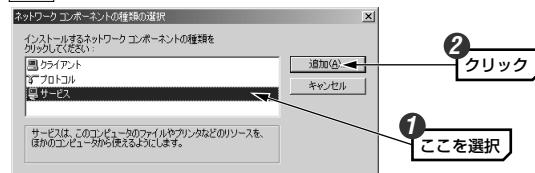
- ①「TCP/IP->Air@Hawk/LD-WL11/PC02」を選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。
- ②「IPアドレスを指定」を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを入力します。



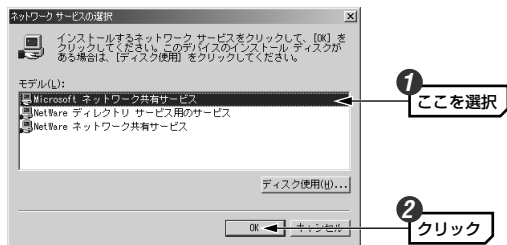
- 6** もう一度、〈ネットワーク〉画面で **追加** ボタンをクリックします(手順 **2** 参照)。

・〈ネットワークコンポーネントの種類の選択〉画面が表示されます。

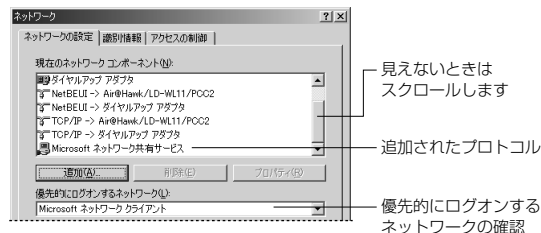
- 7** インストールするネットワークコンポーネントとして「サービス」を選択し、**追加** ボタンをクリックします。



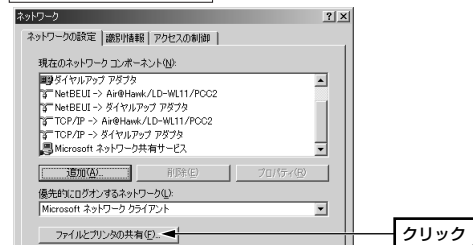
- 8** モデルとして「Microsoftネットワーク共有サービス」を選択し、**[OK]** ボタンをクリックします。



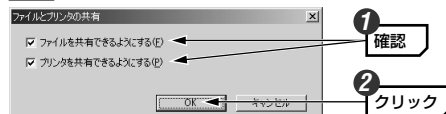
- 9** サービスが追加されたことを確認します。また、[優先的にログオンするネットワーク]が「Microsoftネットワーククライアント」になっていることを確認します。



- 10** **[ファイルとプリンタの共有]** ボタンをクリックします。

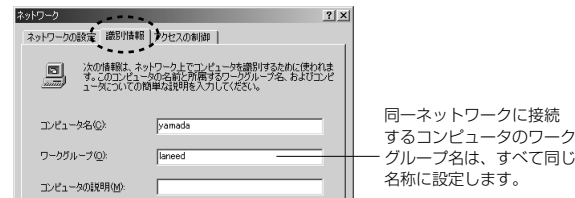


- 11** 「ファイルを共有・・・」「プリンタを共有・・・」の両方を有効(☒)にし、**[OK]** ボタンをクリックします。



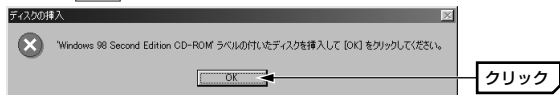
・チェックボックスをクリックすると有効/無効が切り替わります。

- 12** **[識別情報]** タブをクリックします。



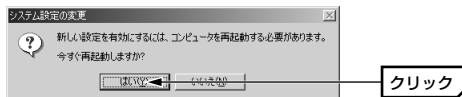
13 内容を確認し、正しければ **[OK]** ボタンをクリックします。

- ・変更が必要な場合は[コンピュータ名]と[ワークグループ]を入力します。
- ・項目の意味については、23ページの「MEMO」を参照してください。

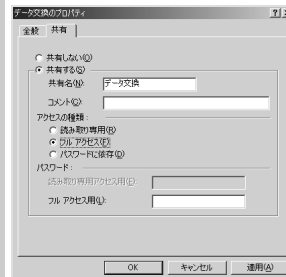
14 ディスク挿入を促すメッセージが表示されたときは、Windowsのディスクを挿入し、**[OK]** ボタンをクリックします。

- ・表示されたメッセージに対応したOSのディスクを入れます。
- ・Windows 98には「Windows 98 CD-ROM」と「Windows 98 SECOND EDITION CD-ROM」がありますのでご注意ください。

MEMO ディスクを挿入したドライブを指定する画面が表示されたときは、25ページの手順 **8** の「MEMO」を参考に指定します。ドライブ名のあとに、Windows 98なら「WIN98」ディレクトリを、Windows Meなら「WIN9x」ディレクトリを指定し、**[OK]** ボタンをクリックしてください。

15 再起動を確認するメッセージが表示されますので **[はい]** ボタンをクリックします。**16** 再起動すると設定した内容が有効になります。これでピア・ツー・ピアのネットワーク設定は完了です。なお、同じネットワークに接続されるコンピュータはすべて同じ設定をする必要があります。**MEMO**

ファイルやプリンタを共有するには、ネットワークが有効になってから次の手順で共有設定をおこなってください。

■ファイル共有の画面例

- ①共有したいファイルのあるフォルダやプリンタのアイコンを右クリックし、メニューを表示します。
- ②メニューから[共有]を選択します。
- ③「共有する」を有効にし、必要な事項を設定します。

注意

本製品はホットプラグに対応しています。ただし、Microsoft共有ネットワークサービスなどWindowsが起動するときにログイン操作が必要なネットワークで、Windowsの起動後に本製品を取り付けると、そのままではネットワークを利用できません。このような環境では、本製品を取り付けたあとにログイン操作を実行してください。

Windows 2000のネットワーク設定例

基本的なネットワークでの設定例を説明します。

Windows 2000にはAdministrator権限でログオンしておきます。

1 [スタート]→[設定]→[ネットワークとダイヤルアップ接続]を開きます。

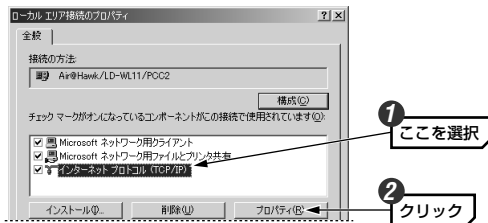
・〈ネットワークとダイヤルアップ接続〉画面が表示されます。

2 [ローカルエリア接続]を右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。

・〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面が表示されます。

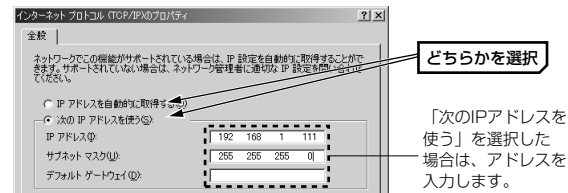
MEMO [ローカルエリア接続]の名称は、アダプタをインストールした環境によって変わります。〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面に表示されるアダプタ名から、ネットワークを設定するアダプタであるかを確認してください。

3 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。



・〈インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ〉画面が表示されます。

4 IPアドレスに関する設定をします。



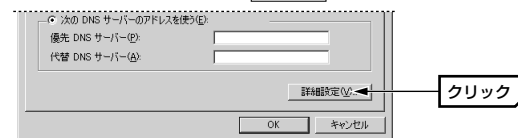
●DHCPサーバ(機能)を使用している場合

「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。

●DHCPサーバ(機能)を使用していない場合

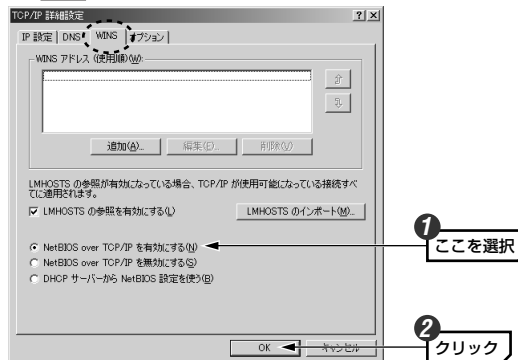
「次のIPアドレスを使う」を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを入力します。「デフォルトゲートウェイ」と「DNSサーバ」はルータなどを使用してLANを超える場合に使用する項目なので、ここでは入力していません。

5 IPアドレスの設定が終われば、[詳細設定] ボタンをクリックします。



・〈TCP/IP詳細設定〉画面が表示されます。

- 6** 【WINS】 タブで、「NetBIOS over TCP/IPを有効にする」をオン(●)にし、**OK** ボタンをクリックします。



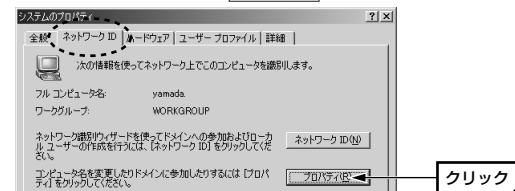
・〈インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ〉画面に戻ります。

- 7** 〈インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ〉画面→〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面で、それぞれ **OK** ボタンをクリックして画面を閉じます。さらに〈ネットワークとダイヤルアップ接続〉画面を閉じます。

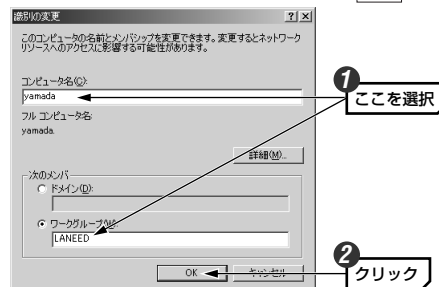
- 8** [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[システム]アイコンを開きます。

・〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。

- 9** 【ネットワークID】 タブで、**プロパティ** ボタンをクリックします。



- 10** コンピュータ名とワークグループを設定し、**OK** ボタンをクリックします。



・表示されているコンピュータ名とワークグループから変更する必要がない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

- 11** ワークグループを変更した場合はメッセージが表示されます。**OK** ボタンをクリックします。



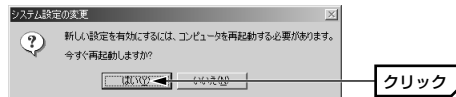
・コンピュータ名だけを変更した場合は、この画面表示されません。

- 12** 次のメッセージが表示されます。**OK** ボタンをクリックします。



- 13** 〈システムのプロパティ〉画面で、**OK** ボタンをクリックします。

- 14** 設定を変更した場合は、再起動を促すメッセージが表示されますので **はい** ボタンをクリックします。



Windows 2000の場合、ネットワーク設定をしただけではデータのやり取りはできません。続いてコンピュータごとにユーザのアクセス権を設定します。このあとの説明に進んでください。



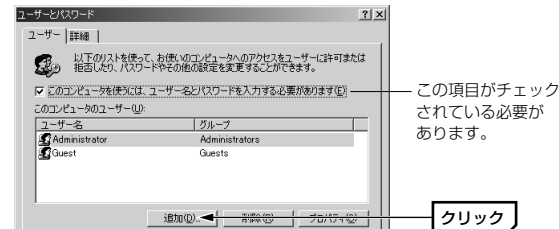
本製品はホットプラグに対応しています。ただし、Microsoft共有ネットワークサービスなどWindowsが起動するときにログイン操作が必要なネットワークで、Windowsの起動後に本製品を取り付けると、そのままではネットワークを利用できません。このような環境では、本製品を取り付けたあとにログイン操作を実行してください。

Windows 2000のユーザアクセス権の設定

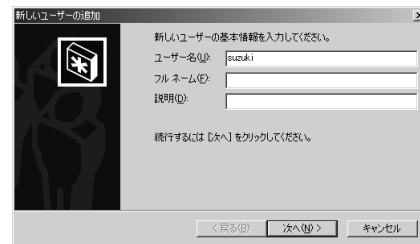
Windows 2000をインストールしたコンピュータにアクセスできるようにするには、あらかじめ、アクセスを許可するユーザを登録しておく必要があります。

- 1** [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の順に選択し、コントロールパネルにある[ユーザーとパスワード]を開きます。

- 2** 〈ユーザーとパスワード〉画面が表示されますので、**追加** ボタンをクリックします。



- 3** このあとは、ウィザードのメッセージに従って、新しいユーザを登録します。



- 4** 登録が完了すると、登録したユーザのアクセスが許可されるようになります。

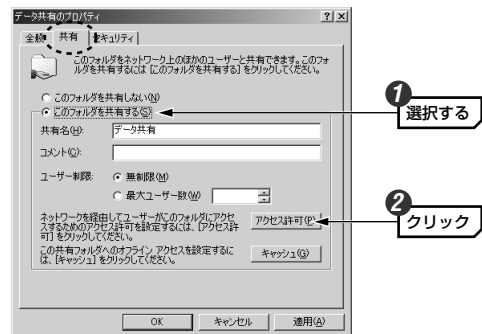
Windows 2000の共有設定例

Windows 2000上のフォルダやドライブにアクセスできるように共有設定をおこないます。Windows 2000はWindows NT 4.0と同じように、アクセス権の設定がWindows Me/98に比べて詳細になっています。また、NTFSフォーマットでドライブをフォーマットしている場合は、さらにセキュリティ設定が必要になります。

- 共有したいフォルダを右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。

・フォルダのプロパティが表示されます。

- 【共有】タブで「このフォルダを共有する」を有効にし、[アクセス許可] ボタンをクリックします。



- このあとは、必要に応じてフォルダに対するアクセス権を設定してください。なお、NTFSフォーマットの場合は、【セキュリティ】タブでアクセス権を設定することをお勧めします。

12 設定ユーティリティのインストール

Lanetd

付属のCD-ROMディスクの中には、ドライバ以外に無線LANの設定に必要な設定ユーティリティが入っています。ここでは、設定ユーティリティをインストールする手順について説明します。なお、説明の画面には、Windows Meを使用しています。

- 付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。

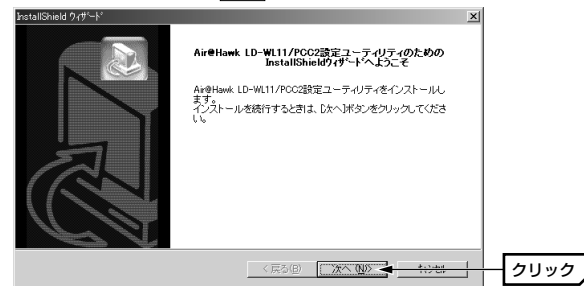
- マイコンピュータなどから付属のCD-ROMの「PCC2UTL」フォルダ内にあるsetup(.exe)をダブルクリックします。



・インストーラが起動します。

注意 他の名称のフォルダにsetup(.exe)があった場合でも、必ず「PCC2UTL」フォルダ内のsetup(.exe)を起動してください。

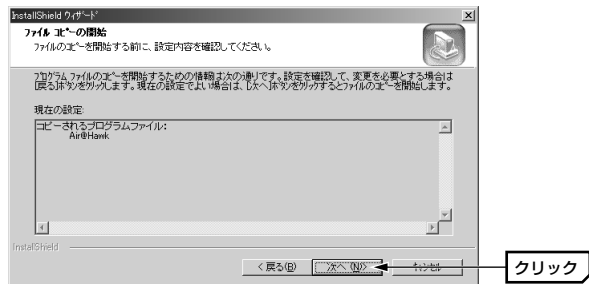
- ウィザードが起動します。「次へ」ボタンをクリックします。



- 4** インストール先を指定します。通常はそのまま変更する必要はありませんので、**次へ** ボタンをクリックします。

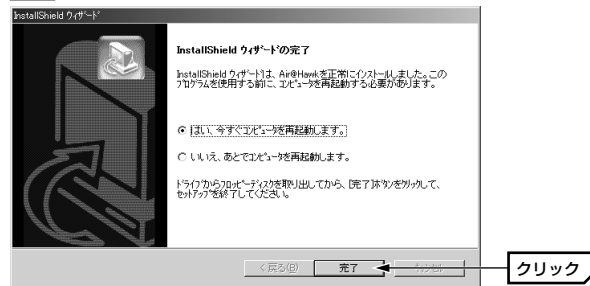


- 5** <ファイルのコピー開始> 画面が表示されます。**次へ** ボタンをクリックします。



・インストールが始まります。

- 6** <InstallShieldウィザードの完了> 画面が表示されます。通常はそのまま**完了** ボタンをクリックして再起動します。



これでインストールを完了です。続いて設定ユーティリティで基本設定をおこないます。次ページの「基本設定をする」へ進みます。

MEMO アンインストールするときは
[スタート]→[プログラム]→[Air@Hawk]の[Uninstall Air@Hawk LD-WL11/PCC2設定ユーティリティ]を実行してアンインストールします。

基本設定をする

Laneed

無線LANが使えるように必要な設定をおこないます。本製品の設定ユーティリティやアクセスポイントのファームウェアは、機能向上のために更新されていることがあります。弊社ラードホームページ(77ページ参照)にアクセスするなどして、常に最新の設定ユーティリティおよびファームウェアに更新してください。

●インフラストラクチャ・モードで本製品をご使用になる場合

初期値のままでも無線LANに接続できます。ただし、この場合は接続できることを確認した時点で、ESS-IDを「設定する」に変更し、ESS-IDの名称を「ANY」から任意のESS-IDに変更してください。また、同じ無線LANグループのESS-IDはすべて同じ名称に設定してください。

●ESS-IDとは

隣接した場所の無線LANとのデータの混信や不正アクセスなどを防ぐために、ほかの無線LANグループと自分たちの無線LANを区別するために付けるグループ名称です。同じ無線LANグループに所属するコンピュータには同一のESS-IDを設定することで、他のESS-IDを持った無線LANグループとは区別することができます。名称には他人に推測されにくい半角英数字を使用します。

●本製品からアクセスポイントを設定する場合

本製品から無線LANを使ってアクセスポイントのユーティリティを設定する場合は、本製品の設定ユーティリティの設定を初期値のままにしてアクセスポイントに接続してください。本製品のESS-IDを先に変更してしまうとアクセスポイントに接続できなくなります。先に変更してしまった場合は初期値の「ANY」に戻してください。

MEMO 「ANY」に設定すると実際に使用している無線LANグループのESS-IDと関係なく接続できるようになります。

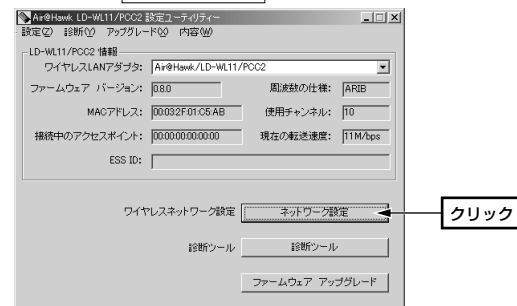
基本機能を設定する

ここでは、無線LANを使用するために最小限の設定について説明します。

1 本製品を取り付けた状態でコンピュータを起動します。

2 「設定ユーティリティ」画面が表示されます。表示されていない場合は[スタート]→[プログラム]→[Air@Hawk]→[Air@Hawk LD-WL11 PCC2設定ユーティリティ]を選択します。

3 メイン画面で **ネットワーク設定** ボタンをクリックします。



- 4** 必要に応じてESS-IDを設定します。同じ無線LANグループのコンピュータは、すべて同じESS-IDに設定します。



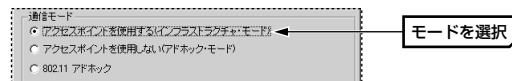
- 無線LANの接続が確認できるまでは、初期値の「ANY」ままでもかまいません。ただし、接続を確認したあとは設定を変更してください。
- ESS-IDの意味については50ページの「ESS-ID」をお読みください。

設定しない	ESS-IDを設定しません。この場合、本製品を使用している他のコンピュータから、このコンピュータにはアクセスできますが、このコンピュータから接続できるのは、ESS-IDを設定していないコンピュータだけです。
設定する	ESS-IDを半角英数字32文字以内で入力します。大文字と小文字が区別されます。無線LAN上の同一グループに所属するコンピュータはすべて同じ名称にします。ESS-IDの異なるコンピュータに接続することはできません。

注意 ESS-IDは不正アクセスを防ぐために、実際には第三者に推測されにくい名称を設定してください。

MEMO アクセスポイントのESS-IDを一覧から選択できます
ESS-IDを「設定する」に設定し、通信モードを「アクセスポイントを使用する(インフラストラクチャ・モード)」に設定すると、「アクセスポイントリストです。(BSSID)」の **検索** ボタンが有効になります。このボタンをクリックすると、本製品が認識できるアクセスポイントのMACアドレスとESS-ID(SSIDと表記)が表示されます。接続するアクセスポイントのMACアドレスをクリックし、**決定** ボタンをクリックすると自動的にESS-IDが設定されます。

- 5** 通信モードを設定します。ご使用になる環境に合わせて設定します。



- 初期値は「アクセスポイントを使用しない(アドホック・モード)」になっています。

アクセスポイントを使用する(インフラストラクチャ・モード)	アクセスポイントを経由してデータのやり取りをします。本製品など無線LANアダプタのほかに、アクセスポイントが別途必要です。使用するチャンネルは電波状態に合わせて自動的に設定されます。
アクセスポイントを使用しない(アドホック・モード)	本製品同士または本製品と無線LANアダプタだけで、直接データのやり取りをします。本製品または無線LANアダプタが2台以上あれば、無線LANを使用できます。「チャンネルの設定」で使用するチャンネルを設定する必要があります。
802.11アドホック	802.11アドホック・モードで接続します。ESS-IDの設定を利用して通信するモードです。同じESS-IDのアクセスポイントがあった場合に、通信が不安定になります。通常は選択しないでください。

- 6** 手順 **5** で「アクセスポイントを使用しない(アドホック・モード)」を選択した場合は、「チャンネルの設定」で実際に使用するチャンネルを指定します。



- 使用するチャンネルは1~14chの中から選択します。なお、「802.11アドホック」を選択した場合も、チャンネルを指定します。
- 同じ無線LANグループ内にある本製品を含む無線LANアダプタは、すべて同じチャンネルを使用するように設定します。
- インフラストラクチャ・モードでこの設定を変更しても無効です。

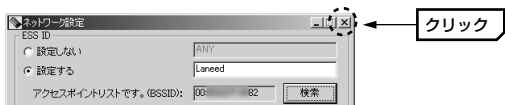
注意 複数のチャンネルを使用する場合、別の無線LANグループが使用しているチャンネルと混信をさけるため、同時使用可能なチャンネルを設定してください。同時使用可能なチャンネルについては、14ページ「同時に使用可能なチャンネルについて」をお読みください。

7 変更した内容を保存します。「変更」ボタンをクリックします。



・メイン画面に戻ります。

8 画面右上にあるクローズボックス(×)をクリックして設定ユーティリティを終了します。



これで基本的な設定は完了です。続いて無線LANが正常に動作しているかを確認します。このあとの「動作を確認する」へ進みます。

動作を確認する

ここでは、Microsoftネットワーク共有サービスを設定している場合の動作確認方法を説明します。あらかじめ、ネットワーク設定と共有設定ができていないこととします。

MEMO その他の確認方法は・・・

ネットワーク管理者がいるようなネットワークでは、ネットワーク管理者の指示に従ってください。インターネットに接続できる環境では、本製品を接続したコンピュータでMicrosoft Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動し、任意のURLを入力して、そのページが表示されるかを確認してください。

1 デスクトップの「マイネットワーク」アイコンをダブルクリックします。



・Windows 98では「ネットワークコンピュータ」と表示されています。

2 ご使用のネットワーク環境に合わせて、同じワークグループ等のコンピュータがネットワーク上で見えることを確認します。

(例)Windows Meのデスクトップにある「マイネットワーク」で、同じワークグループのコンピュータの共有フォルダが見えることを確認した場合



MEMO 無線LANが正しく設定されていても、各コンピュータのネットワーク設定が終わっていないとネットワークには接続できません。

これで無線LANの動作確認は完了です。

よりセキュリティを高めるためにWEPを設定したり、その他のオプション機能を設定できます。詳しくは次ページ「14.オプション機能を設定する」をお読みください。

1 オプション機能を設定する

Laneed

基本設定だけで無線LANを使用することはできますが、セキュリティを高めたり、実際の環境に合わせてオプション機能を設定することができます。ここでは、これらの設定方法を説明します。

WEPを設定する

無線LAN上でやり取りされるデータを盗聴から保護するためにWEP(Wired Equivalent Privacy)に基づいてデータを暗号化することができます。本製品は40ビット暗号化のWEP40と128ビット暗号化のWEP128に対応しています。なお、WEPを設定すると、WEPを設定していないコンピュータでは、受信したデータを読み取れなくなります。



弊社のアクセスポイント"LD-WL11/AP"を使ってWEPを利用する場合は、アクセスポイントのファームウェアがバージョン2.0.0以上であることを確認してください。それ以前のバージョンでWEPを使用する場合は、通信速度の設定を5.5Mbps以下に設定する必要があります。アクセスポイントのファームウェアのバージョンアップについては、アクセスポイントのマニュアルをお読みください。

WEP設定のポイント

●キーに入力できる文字と文字数

各キーに入力できる文字は半角文字の16進数だけです。16進数とは0～9の数字とA～Fのアルファベットで構成される文字列です。例えば「0C2F91A27B」のようになります。全角文字をはじめ、G以降のアルファベットや「-」などの記号は使えません。また、大文字と小文字は区別されません。

入力する文字数は、40ビットでは10桁の文字列を入力します。128ビットでは26桁の文字列を入力します。それぞれ文字数は固定で、多くても少なくとも正しく設定できません。

(例)40ビットの場合→2fbfe80e2dまたは2FBFE80E2D

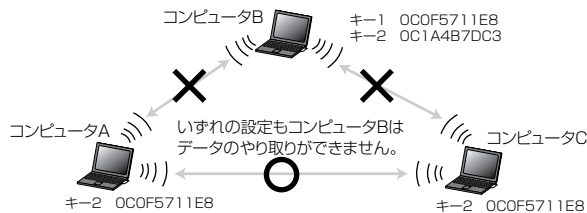
128ビットの場合→82db92c960af05c5a621448a6a

または82DB92C960AF05C5A621448A6A

14. オプション機能を設定する

●暗号キー設定

暗号キーにはキー1～キー4まであり、同時に4種類のキーを登録できます。コンピュータAとコンピュータBの間で暗号化したデータをやり取りする場合は、お互いが同じ暗号キーの番号(キー1～キー4のいずれか)に同じキーワードを入力します。これで相互に暗号化されたデータを正しく受信できます。キー番号は4つありますが、実際に使用するのはひとつだけです。使用する暗号キーの番号にだけ文字列を設定してもかまいません。WEPを設定しても暗号キーの文字列が異なったり、文字列が同じでも使用する暗号キーの番号が異なっていると、データのやり取りはできません。

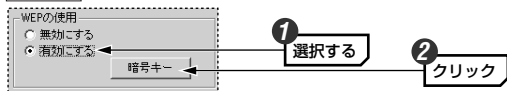


●暗号キーのビット数

本製品では、40ビットまたは128ビットでデータを暗号化することができます。WEPを使用するすべてのコンピュータおよびアクセスポイントは同じビット数を指定する必要があります。40ビットよりも128ビットのほうがより高度なセキュリティを確保できますが、電波状態によっては伝送速度が低下したり、伝送距離が短くなってしまうことがあります。

WEPの設定手順

- 1** <ネットワーク設定>画面の[WEPの使用]で「有効にする」を選択し、**暗号キー** ボタンをクリックします。



- 2** <無線LAN暗号化>画面が表示されます。[暗号キー]で使用するWEPのビット数を選択します。



40-ビット	データを40ビットで暗号化します。
128-ビット	データを128ビットで暗号化します。40ビットよりも高度なセキュリティを確保できます。ただし、電波状態によっては40ビットよりも伝送速度が低下したり、伝送距離が短くなることがあります。

- 3** 暗号キーのキー番号を選択します。



・同じ無線LANグループの無線LAN機器は、すべて同じキー番号を使用するように設定してください。

- 4** 選択したキー番号に暗号として使用する16進数を入力します。

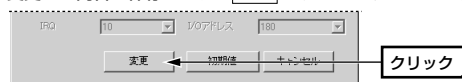


- ・大文字/小文字は区別されません。
- ・40ビットの場合は10桁の文字列を入力します。128ビットの場合は26桁の文字列を入力します。
- ・それぞれ文字数は固定で、多くても少なくても正しく設定できません。

- 5** 設定が完了したら **決定** ボタンをクリックします。



- 6** 変更した内容を保存します。 **変更** ボタンをクリックします。



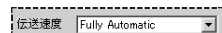
- ・メイン画面に戻ります。

このコンピュータのWEPの設定は完了です。同じ無線LANグループの無線LAN機器で同じ設定をします。

設定ユーティリティには無線LANの基本機能の設定のほかに、WEPなどの各種オプション機能を設定することができます。これらの設定を変更した場合は、すべての項目の設定が完了したあとで、〈ネットワーク設定〉画面の **変更** ボタンを必ずクリックしてください。

その他のオプション機能を設定する

伝送速度



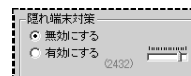
本製品が使用する伝送速度を設定します。通常は、「Fully Automatic」に設定します。「Fully Automatic」にしておくとお環境に合わせて最適な速度で通信できます。

1Mb	1Mbps固定です。
2Mb	2Mbps固定です。
Auto 1 or 2 Mb	1Mbpsまたは2Mbpsを自動的に選択して通信します。
5.5Mb	5.5Mbps固定です。
11Mb	11Mbps固定です。
Fully Automatic	環境に合わせて最適な速度で通信します。



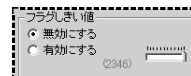
弊社のアクセスポイント「LD-WL11/AP」を使ってWEPを利用する場合は、アクセスポイントのファームウェアがバージョン2.0.0以上であることを確認してください。それ以前のバージョンでWEPを使用する場合は、通信速度の設定を5.5Mbps以下に設定する必要があります。アクセスポイントのファームウェアのバージョンアップについては、アクセスポイントのマニュアルをお読みください。

隠れ端末対策



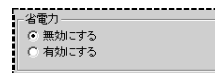
障害物などにより隠れ端末ができると、コリジョンが発生してデータの転送効率低下することがあります。このような場合は、「有効にする」を選択すると、設定した値を超えるパケットが端末から送信された場合に、CSMA/CA with RTS/CTS方式で通信するようになります。これにより、コリジョンを回避することができます。「有効にする」を選択した場合は、スライダで値を設定します。隠れ端末がない場合は、「無効にする」を選択します。

フラグしきい値



通信状態が悪い環境では、同じデータの送信を何度もくり返して要求されることがあります。このような環境で、大きなファイルサイズのデータを送信すると、再送信がくり返されたり、それが原因でコリジョンが発生したりします。このような場合に、「有効にする」を選択し、スライダでしきい値を設定します。設定したしきい値を超えるサイズのファイルは分割して送信されるようになります。

省電力

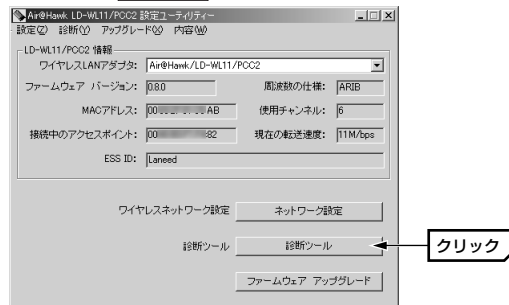


本製品を省電力モードで使用するとコンピュータ本体の消費電力を抑えることができます。コンピュータ本体が省電力モードに対応している場合に「有効にする」を選択します。コンピュータ本体が省電力モードに対応していない場合は「無効にする」を選択してください。間違った設定をすると認識されないなどの問題が発生する恐れがあります。

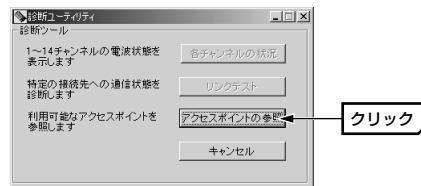
アクセスポイントの参照

無線LANで使用されているアクセスポイントを一覧として表示することができます。アクティブな状態にあるすべてのアクセスポイントの状態を表示することができます。なお、アクセスポイントのスキャン中は、ネットワークが一時的に中断されますので、データの送受信はできません。

1 メイン画面で「診断ツール」ボタンをクリックします。



2 「診断ユーティリティ」画面が表示されます。「アクセスポイントの参照」ボタンをクリックします。



3 「実行」ボタンをクリックするとアクセスポイントの情報を表示します。



- ・「中止」をクリックするとモニターを中止します。
- ・「キャンセル」をクリックすると画面を閉じ、〈診断ユーティリティ〉画面に戻ります。

BSS ID	アクセスポイントのMACアドレスです。
ESS ID	アクセスポイントに設定しているESS-IDです。
チャンネル番号	アクセスポイントが使用しているチャンネル番号です。
ビーコンの間隔	ビーコンの送信間隔を表示します。数値が小さいほど頻繁にビーコンを発信しています。
設定可能な通信速度	現在の状況で使用可能な通信速度です。電波状態が悪いときなどは、低速な通信速度しか表示されません。
ネットワークタイプ	ネットワークタイプを表示します。
信号レベル	値が大きいほど強い信号を発信しています。
ノイズレベル	値が小さいほどノイズが少なく、通信状態が良好です。

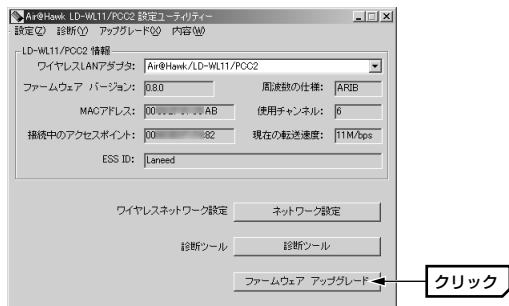
設定ユーティリティを使って本製品のファームウェアをアップグレードすることができます。



アップグレード中は、他のアプリケーションを操作したり、コンピュータの電源を切ったりしないでください。アップグレードに失敗して動作しなくなる恐れがあります。

- 1 弊社のホームページ(<http://www.elecom-laneed.com>)などから、本製品用の最新ファームウェアをダウンロードし、そのデータを任意の場所に保存しておきます。

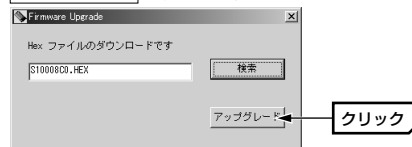
- 2 設定ユーティリティを起動し、メイン画面で **ファームウェア アップグレード** ボタンをクリックします。



- 3 ファームウェアのファイルがある場所を直接指定するか、**検索** ボタンをクリックして場所とファイルを指定します。



- 4 **アップグレード** ボタンをクリックします。



- 5 ファームウェアのアップグレード中であることを示す、インジケータが表示されます。
- 6 アップブレードが終了すると、メイン画面に戻ります。
- 7 これでファームウェアのアップグレードは完了です。

Windows Me/98およびWindows 2000におけるアダプタのプロパティにある「詳細設定」について簡単に説明します。なお、各項目の詳しい説明については、50ページ「13.基本設定をする」および56ページ「14.オプション機能を設定する」をお読みください。

■Windows Me/98でのプロパティの表示方法

- ①[コントロールパネル]で、[ネットワーク]アイコンを開きます。
- ② <ネットワーク> 画面の【ネットワークの設定】タブで”Air@Hawk/LD-WL11/PCC2”を選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。
- ③【詳細設定】タブを選択すると、設定画面が表示されます。

■Windows 2000でのプロパティの表示方法

- ①[スタート]→[設定]→[ネットワークとダイヤルアップ接続]を開きます。
- ②[ローカルエリア接続]を右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。[ローカルエリア接続]の名称は環境によって変わります。
- ③ **構成** ボタンをクリックします。
- ④【詳細設定】タブを選択すると、設定画面が表示されます。

◆Windows Meでの〈詳細設定〉画面



Windows 98/2000でも項目の内容は同じです。

●各項目の意味

Authentication Algorithm	IEEE802.11によって定義されているいずれのアルゴリズムを使用してファームウェアが認証するかを選択します。Must use Shared with WEPでは、シェアードキーアルゴリズムを使用して認証をおこないます。WECA Compliantは、オープンシステムアルゴリズムを使用して認証をおこないます。通常は変更する必要はありません。
Fragmentation Threshold	フラグしきい値の設定
Network Type	通信モードの設定
Power Save Mode	省電力モードの設定
Preamble Mode	Preambleモードを選択します。Preambleには、同期ビット（同期のための情報）を含んでおり、IEEE802.11bによって定義されています。「Short Tx Preamble」は一部の無線LAN製品がサポートしています。「Long Tx Preamble」は、ほとんどの無線LAN製品がサポートしています。「Auto」の場合はファームウェアが自動的に判別します。
RTS Threshold	隠れ端末対策の設定
SSID	ESS-IDの設定
Transmit Rate	伝送速度の設定
Use Wep	WEPの設定

無線LANが利用できない場合は、最小限の無線LANシステムを使って、次の項目をチェックしてください。

■インフラストラクチャ・モードの場合

アクセスポイント1台およびAPユーティリティを接続したコンピュータを起動します。また、本製品を接続したコンピュータを1台起動します。

■アドホック・モードの場合

本製品を接続したコンピュータ2台を起動します。

1 PCカードスロットが正常に動作しているかを確認する。

①15ページ「取り付け前に確認する」をお読みになり、コンピュータ本体のPCカードスロットが正常に動作していることを確認します。

➡(×)や(!)マークが付いている場合は、PCカードスロットのコントローラが正常に動作していませんので、再設定してください。

②正常に認識されていることを確認したら、次のチェック項目へ進みます。

2 本製品が正常に認識されているかを確認する。

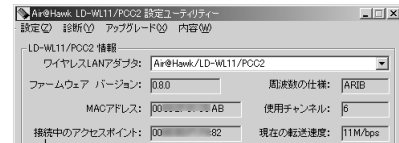
①31ページ「10.ドライバの動作を確認する」をお読みになり、本製品のドライバが正常に動作していることを確認します。

➡(×)や(!)マークが付いているときは、ドライバが正常にインストールされていません。ドライバを再インストールしてください。

②正常に認識されていることを確認したら、次のチェック項目へ進みます。

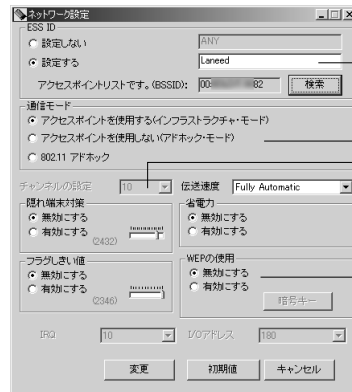
3 設定ユーティリティで無線LANの設定を確認する。

①[スタート]→[プログラム]→[Air@Hawk]→[Air@Hawk LD-WL11/PCC2設定ユーティリティ]を選択します。



インフラストラクチャ・モードの場合、アクセスポイントにアクセスできているときは、メイン画面にアクセスポイントのMACアドレスが表示されます。アクセスできないときは「No Connection」と表示されます。

②〈設定ユーティリティ〉画面で **ネットワーク設定** ボタンをクリックし、〈ネットワーク設定〉画面を開きます。



ESS-IDが同じ正しく入力されているか確認します。大文字、小文字が区別されますので注意してください。➡52ページ

実際に使用する通信モードが選択されているかを確認します。アドホック・モードの場合は、正しいチャンネルが選択しているかも確認します。➡53ページ

WEPの内容を確認します。WEPをいったん解除し、動作チェックすることをお勧めします。➡58ページ

④インフラストラクチャ・モードの場合、アクセスポイント側のESS-IDおよびWEPが本製品と同じ設定内容になっているかを確認します。

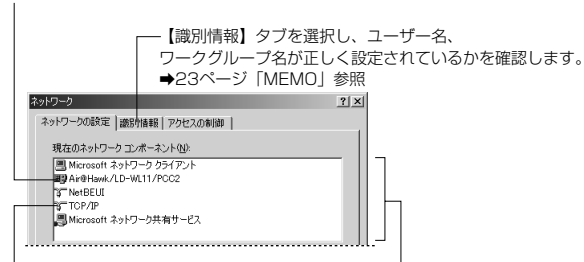
⑤すべてのチェック項目で問題が発見できれば次へ進みます。

4 ネットワーク設定を確認する。

これまでのチェック項目に問題が発見できない場合は、ネットワーク設定が正しくない可能性があります。ここではWindows Me/98について説明しています。

①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]で「ネットワーク」をダブルクリックし、〈ネットワーク〉画面を開きます。

本製品(Air@Hawk/LD-WL11/PCC2)が表示されていることを確認します。



インターネットを利用するときは、TCP/IPプロトコルが登録されている必要があります。インターネットが利用できないときは、ブラウザの設定も確認してください。

クライアント、プロトコル、サービスが正しく設定されていることを確認します。設定はご使用になるネットワーク環境によって異なります。

②ネットワークではドライブ、フォルダなどの共有設定が必要です。また、共有設定したドライブ、フォルダへのアクセス許可の設定が正しいかを確認してください。

●これらの内容を確認しても正常に動作しない場合は、状況を確認のうえ、弊社サポートセンターにお電話またはFAXしてください。

13 こんなときは

Laneed

無線LAN関係のトラブル

●PCカードスロットがひとつしかないため、CD-ROMドライブが使えない。

①OSのCD-ROMについて

Windows 98の場合は、システムソフトウェアをハードディスクにコピーする必要があります。本製品のドライバのセットアップを始める前に、Windows 98 CD-ROMの「win98」ディレクトリをハードディスクにコピーしておきます。セットアップ中にOSのCD-ROMを要求されたら、CD-ROMの代わりにハードディスク内の各ディレクトリを指定してください。

※Windows Me/2000では通常はシステムソフトウェアのCD-ROMを要求されることはありません。

②本製品のドライバおよび設定ユーティリティについて

はじめに、ハードディスクの任意の場所に作成したフォルダに、付属のCD-ROMにある「PCC2UTIL」ディレクトリとルートディレクトリにあるすべてのファイルをハードディスクにコピーして、そのドライブからインストールしてください。

※ファイルをコピーするときの注意点

Windowsのシステムは標準では一部のファイルが表示されません。CD-ROMの内容を表示したうえで、[ツール]→[フォルダオプション]を開き、「表示」で「すべてのファイルとフォルダを表示する」ように設定してください。

無線LAN関係のトラブル

●Powerランプ、Linkランプが点灯しない。

①本製品をPCカードスロットの奥までしっかりと差し込んでいますか。

コンピュータ本体のマニュアルを読んで、本製品をPCカードスロットに確実に差し込んでください。

②PCカードスロットは正常に動作していますか。

15ページ「取り付け前に確認する」を読んで、ご使用になっているコンピュータのPCカードスロットが正常に動作しているか確認してください。

●無線LANがつかない。**①ドライバを正しくインストールしましたか。また、設定ユーティリティをインストールして必要な設定をしましたか。**

31ページ「10.ドライバの動作を確認する」を読んで、ドライバのインストールが正常に完了しているか確認してください。また、本製品を使用するには、設定ユーティリティをインストールし、通信モードなどを設定する必要があります。

②本製品をPCカードスロットの奥までしっかりと差し込んでいますか。

コンピュータ本体のマニュアルを読んで、本製品をPCカードスロットに確実に差し込んでください。

③PCカードスロットは正常に動作していますか。

15ページ「取り付け前に確認する」を読んで、ご使用になっているコンピュータのPCカードスロットが正常に動作しているか確認してください。

④通信モードを正しく設定していますか。

設定ユーティリティの〈ネットワーク設定〉画面で、通信モードが正しく設定されているか確認してください。無線LANカードだけで通信する場合は、「アクセスポイントを使用しない」に設定し、アクセスポイント経由で通信する場合は、「アクセスポイントを使用する」に設定してください。

⑤ネットワーク設定で、実際のネットワーク環境に応じたプロトコル、サービスなどの設定をしていますか。

プロトコル(TCP/IPなど)、クライアント(Microsoft Networkクライアントなど)、サービス(Microsoft Network共有サービスなど)を環境に応じて設定する必要があります。また、TCP/IPを使用する場合は、IPアドレスに開する設定が必要です。

⑥ESS-IDの設定は正しいですか。

本製品のESS-IDとアクセスポイントや他の無線LANアダプタのESS-IDが異なると、アクセスポイントや相手のコンピュータを見つけることができません。このような場合は、本製品の設定ユーティリティの〈ネットワーク設定〉画面でESS-IDの設定を確認してください。

⑦WEPの設定は正しいですか。

WEPを利用している環境では、すべての無線LANアダプタおよびアクセスポイントのWEP設定が有効になっている必要があります。また、WEPはデータをやり取りするすべてのコンピュータで同じ設定になっている必要がありますので確認してください。

●本製品からアクセスポイントを見つけられない。動作がおかしい。**①ファームウェアのバージョンは最新ですか。**

弊社アクセスポイント“LD-WL11/AP”でWEPを使用する場合、アクセスポイントのファームウェアがバージョン2.0.0未満では、通信速度を5.5Mbps以下に設定する必要があります。ファームウェアがバージョン2.0.0未満の場合は、ファームウェアをバージョンアップしてください。

②アクセスポイントのESS-IDは正しいですか。

本製品のESS-IDとアクセスポイントのESS-IDが異なると、アクセスポイントを見つけることができません。同じESS-IDを設定してください。

※有線LANを使わずに、本製品から無線LANでアクセスポイントに接続する場合、ESS-IDが異なると接続することができません。このような場合は、本製品の設定ユーティリティの〈ネットワーク設定〉画面でESS-IDを「使用しない」に設定してください。こうすることで、本製品に近接するアクセスポイントに接続できるようになります。接続後、アクセスポイント側のESS-IDを正しい名称に変更し、次に本製品のESS-IDを同じ名称に設定してください。

③WEPを設定していませんか。

WEPを利用している環境では、すべての無線LANアダプタおよびアクセスポイントのWEP設定が有効になっている必要があります。また、WEPはデータをやり取りするすべてのコンピュータで同じ設定になっている必要がありますので確認してください。

※WEPを設定している場合は、本製品から無線LANを使ってアクセスポイントを見つけることができません。そのため、本製品からアクセスポイントの設定を変更することはできません。このような場合は、有線LAN経由かTelnet経由でアクセスする必要があります。Telnetのコマンドについては、アクセスポイントのユーザズマニュアルにある「こんなときは」を参照してください。

④アクセスポイント側でMACアドレスフィルタリングを設定していませんか。

アクセスポイント側でMACアドレスフィルタリング(アクセスコントロール)を設定している場合、本製品が接続できないような設定になっている恐れがあります。アクセスポイントの設定ユーティリティで確認してください。

●データの転送速度が遅い。

設定ユーティリティの伝送速度を「Auto」に設定している場合、接続先のアクセスポイント(アドホック・モードではコンピュータ)との距離が離れていたり、障害物があると自動的に伝送速度を遅くします。設定ユーティリティの信号レベルと電波状態を確認してください。なお、伝送速度を固定すると、指定した速度では電波が届かない場合は、電波が途切れてデータが送れなくなります。

●本製品の設定は正常に終了したが、ネットワークコンピュータを開くと「ネットワークを参照できません。」のエラーが表示される。

①OSごとに次の内容をチェックしてみてください。

・Windows Me/98上で本製品が正常に動作しているかを確認する方法
[コントロールパネル]→[システム]→[デバイスマネージャ]から[ネットワークアダプタ]をダブルクリックし、本製品のドライバが正常に動作しているかを確認してください。また、[デバイスマネージャ]で[その他のデバイス]の項目があれば、ダブルクリックし、ドライバ名を確認してください。もし本製品のドライバが組み込まれていたら削除して再起動してください。

・Windows 2000上で本製品が正常に動作しているかを確認する方法
[コントロールパネル]→[システム]で【ハードウェア】タブ→**「デバイスマネージャ」** ボタンをクリックします。「デバイスマネージャ」の一覧にある「ネットワークアダプタ」の本製品のアダプタ名をダブルクリックし、本製品のドライバが正常に動作しているかを確認してください。

Windows Me/98環境でのトラブル

●Windows 98で本製品の設定をおこなった場合にCD-ROMを要求されてしまう。

ネットワークの設定に必要なファイルは、弊社提供のドライバの他にWindows 98側で提供されるファイルも含まれています。このような場合は、表示されるメッセージに従って、Windows 98のCD-ROMをドライブにセットし、そのドライブの「WIN98」ディレクトリをパスとして指定してください。

例：CD-ROMドライブがDドライブの場合→D:¥WIN98

※Windows 98プリインストール(最初からインストールしてある)の機種に関してはパスの指定をc:¥Windows¥Options¥Cabsに変更してください。インストールできない場合は、コンピュータ本体のメーカーにおたずねください。

●Windows Me/98でネットワークに接続したが、ファイルやプリンタの共有ができない。

ネットワークには接続できて相手側へ入れるようになったが、相手側のドライブやプリンタの使用ができないときは次の点を確認してください。

- ①[ネットワークコンピュータ]→[プロパティ]→「ネットワーク構成の一覧」に「Microsoftネットワーク共有サービス」が組み込まれているかを確認してください。

組み込まれていない場合は[ファイルとプリンタの共有]のチェックボックスをクリックして、有効にして **OK** ボタンをクリックしてください。

- ②共有したいフォルダやプリンタに共有設定をおこなっているかを確認してください。共有の方法は次のようにしてください。

・共有したいフォルダやプリンタのアイコンを右クリックしてメニューを表示します。

・共有という項目を選択し、「共有しない」になっている設定を「共有する」に変更して **OK** ボタンをクリックしてください。

Windows 2000環境でのトラブル

●ネットワーク設定ができない。

Administrator権限でログオンしていますか。ネットワークの各種設定にはAdministrator権限がないと設定できない項目があります。

●利用者がWindows 2000をインストールしたコンピュータにアクセスできない。

- ①利用者がアクセスを許可するユーザとして登録されていますか。このマニュアルの45ページを読んで登録されているか確認してください。

- ②利用者が共有フォルダにアクセスできるように設定していますか。また、アクセス内容を正しく設定していますか。NTFSフォーマットのハードディスクの場合は、さらにセキュリティ設定でも利用者を登録しておく必要があります。

19 サポートサービスについて

Laneed

ラニード製品のサポートサービスについては、下記のラニード・サポートセンターへお電話またはFAXでご連絡ください。サポート情報、製品情報に関しては、FAX情報、インターネットでも提供しております。なお、サポートサービスを受けるためには、必ずユーザ登録をおこなってください。

●ラニード・サポートセンター

TEL : 03-3444-5571 FAX : 03-3444-8205

受付時間：月～金曜日 9:00～12:00 13:00～18:00

(夏期・年末年始特定休業日、祝祭日は除きます)

※FAXによる受信は24時間おこなっております。

●インターネット

<http://www.elecom-laneed.com>

●FAX情報サービス

最寄りのサービス情報BOXセンターにお電話ください。

ガイダンスに従って取り出したい情報のBOX番号を指示してください。

メインメニューBOX番号(提供している情報の一覧がFAXされます)

5 5 9 9 0 0

電話番号

東京：03-3940-6000

大阪：06-6455-6000

名古屋：052-453-6000

福岡：092-482-6000

札幌：011-210-6000

仙台：022-268-6000

広島：082-223-6000

●修理の依頼

本製品が故障した場合には、故障した製品と保証書に、故障状況を記入したものを添えてご連絡ください。

保証期間内

まずは、上記のラニード・サポートセンターまで電話またはFAXでご連絡ください。

保証期間外

東京都八王子市子安町3-5-2 セキエレクトロニクス株式会社内
 エレコム修理センター
 電話番号 0426-31-0271 FAX番号 0426-31-0272
 受付時間 月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～17:00
 (ただし、祝祭日および夏期・年末年始特定休業日は除く)
 ※FAXによる受信は24時間おこなっております。

●サポートセンターへお電話される前に

サポートセンターにお電話される前に次の事項を確認してください。

- ・このマニュアルの71ページ「18.こんなときは」をお読みになりましたか。
 まだ、お読みでない場合は、お電話の前にお読みください。
- ・システムを起動できる場合は、起動した状態でお電話ください。
- ・異常のある製品を取り付けたコンピュータの前から会話が可能な場合は、
 コンピュータの前からお電話をおかけください。実際に操作しながらチェッ
 クできますので、解決しやすくなります。
- ・FAXを送られる場合は、付属の別紙「トラブルシート」に、できるだけ詳
 しい内容をご記入ください。

次のことをお調べください。**● ネットワーク構成**

使用しているネットワークアダプタ:
 使用しているOS:
 使用しているコンピュータ本体(メーカーおよび型番):
 ネットワークを構成するコンピュータの台数とOSの構成:
 ネットワークを構成するその他の関連機器(HUB、ルータ等):

● 具体的な現象について

具体的な現象:
 事前にお客様が試みられた事項(あればお伝えください):

23 基本仕様

Laneed

商品名	11Mbps無線LAN PCカード
製品型番	LD-WL11/PCC2
規格	IEEE802.11/IEEE802.11b/ARIB STD-T66/STD-T33
伝送方式	DS-SS(直接拡散スペクトラム拡散方式)
周波数帯域	2.4GHz(2.412～2.4835GHz)
チャンネル	1ch～14ch
伝送速度	11Mbps/5.5Mbps/2Mbps/1Mbps
伝送距離※1	11Mbps：屋内50m/屋外100m 5.5Mbps：屋内80m/屋外160m 2/1Mbps：屋内120m/屋外240m
通信モード	アドホック・モード、インフラストラクチャ・モード(AP 使用時)
アンテナ方式	ダイバーシティアンテナ(内蔵)
セキュリティ	ESS-ID、WEP(40ビット/128ビット)
インターフェイス	PCMCIA Type II
割り込みレベル	自動設定
I/Oポートアドレス	自動設定
LED	Power：電源 Link：接続状態
適合規格	VCCIクラスB準拠
消費電力	1.75W
動作温度	0～50℃
動作湿度	10～70%(結露なきこと)
対応機種	PC/AT互換機(DOS/V)、NEC PC98-NXでPCカード スロット(PCMCIA TYPE II)またはCard Busスロット を持つ機種
対応OS※2	Windows Me, Windows 98, Windows 95 Windows 2000, Windows NT 4.0
付属品	CD-ROM 1枚(ドライバ、設定ユーティリティ)、 ユーザーズマニュアル、ユーザ登録カード、保証書

※1 周囲の環境および条件により、伝送距離は変化します。

※2 最新の対応OSは弊社ラニード・ホームページでご確認ください。

11Mbps無線LAN PCカード

LD-WL11/PCC2

ユーザーズマニュアル

発行 エレコム株式会社

2001年10月12日 第1版

©2001 ELECOM Corporation. All rights reserved.

Laneed

ELECOM